

地域おこし 協力隊通信

あの頃の皆野町を再現！？ タイムスリップ横丁

「秩父音頭まつりに新エリアを」と、町から世界一周大学に対して依頼があったのは6月でした。全国から集まった学生60数人は、ほとんどが初めての皆野町。50日かけて一軒ずつ皆野の店を訪問し「懐かしのフード」や「人の思い出」を集めました。地域おこし協力隊もレシピ再現の調査をし、試作を重ねました。そして皆が待ち望んでいた「エンゼル焼き(矢尾公認)」と「おこうしの焼きそば」は当日行列を作り、その他にも全9店舗がにぎわいを作りました。汗ばむ浴衣に煙と熱気の屋台。声をからし働く彼らは、笑顔でした。新エリアを作りたいんじゃない、「人の心の動く瞬間」を作りたいと始めたタイムスリップ横丁。心を動かされているのは自分だったと気づきました。ご来場・ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

東 廉太郎

秩父音頭まつりの新エリア「タイムスリップ横丁」。矢尾百貨店(皆野町)内にあったレストラン森永の「エンゼル焼き」の味を再現し販売すると大盛況！世代を超えて、たくさんのかたが“あの頃”の皆野町の魅力を味わいました。

みなFES Vol.4 スプラッシュロワイヤル

町内外の子どもたちが笑顔で集う「みなフェス Vol. 4」を皆野小学校で開催しました。

今回は国神小・三沢小が2年後に閉校することを踏まえ、将来同じ校舎で学ぶことになる低学年の子どもたちにとって、環境を知り友達をつくる場となるよう、皆野小を会場に選びました。最大の盛り上がりは水を掛け合う「スプラッシュロワイヤル」。きっかけさえあれば子ども同士はすぐに仲良くなれることを実感しました。参加者からは「皆野に子どもが楽しめるイベントを作ってくれてありがとう」「来年もやってほしい」との声が多く、受け入れられるか不安だった私たちにとって大きな励みとなりました。一方で、小さなお子さんには勢いが強すぎる場面もあり、次回は乳幼児向けスペースの検討も課題です。

次回は11月頃を予定。ボランティアや、子どもが楽しめるワークショップ・ダンス・音楽でいっしょにみなフェスを作ってくれるかを募集しています。

中嶋 仁